

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	国語国文学特別研究						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ-	MJ6010
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜5	配当学年	2	単位数	4.0
授業のテーマ	修士論文を書く						
授業の概要	日本語学・日本語教育に関係するテーマで卒業研究を書くことを目指します。まず、研究倫理を遵守したデータ採集など、研究者としての基本的な姿勢について学びます。次に、採集した用例やデータをどのような視点、枠組みで分析するのかなど、論文を書くため技法を身につけながら、論文を作成していきます。同時に、学会発表をすることも視野に入れ、学会発表やポスター発表をするための方法や技術を身につけます。そのため、積極的に研究会や学会にも参加することを期待します。						
到達目標	① 日本語・日本語教育の分野で高度な知識を身に付けることができる。【知識・理解】 ② テーマについて独自の研究を進め、社会に発信することができる。【態度・指向性】 ③ 研究倫理を深く理解し、データの取り扱い、個人情報の保護、文献や資料の引用など研究倫理に反することがないような意識をもつことができる。【研究倫理】						
授業計画	<前期> 第1回 修士論文とは 第2回 研究倫理について～研究倫理の基本「ねつ造」「改ざん」「盗用」について～ 第3回 研究倫理について2～著作権について～ 第4回 各分野の研究テーマ1 第5回 各分野の研究テーマ2 第6回 データ収集の方法 第7回 データの分析 第8回 テーマ決定 第9回 各自のテーマについて個別指導1 第10回 各自のテーマについて個別指導2 第11回 各自のテーマについて個別指導3 第12回 各自のテーマについて個別指導4 第13回 中間発表の準備1 第14回 中間発表の準備2 第15回 前期のまとめ <後期> 第16回 学会発表の応募の仕方 第17回 要旨の書き方 第18回 発表の準備 第19回 レジューメ、ポスター、スライドの作り方1 第20回 レジューメ、ポスター、スライドの作り方2 第21回 各自のテーマについての発表と質疑応答6 第22回 各自のテーマについて個別指導1 第23回 各自のテーマについて個別指導2 第24回 各自のテーマについて個別指導3 第25回 各自のテーマについて個別指導4 第26回 各自のテーマについて個別指導5 第27回 各自のテーマについて個別指導6 第28回 修士卒業論文の完成1 第29回 修士卒業論文の完成2 第30回 論述口頭試問						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：事前に渡された論文あるいは資料を読んてくる。<学習時間2時間> 事後学習：授業内で出された課題について調べてくる。<学習時間2時間> 発表があたっている時は、わかりやすい資料を作成しプレゼンテーションを行う。 それ以外にも、自分の選んだ卒業論文のテーマについては、図書館などを利用して積極的に調べ、修士論文作成につなげていくこと。						
授業方法	講義と各自の発表や個人指導を中心に行う						
評価基準と評価方法	修士論文50% 【到達目標①と③に関する到達度の確認】 口頭試問30% 【到達目標①と③に関する到達度の確認】 最終発表20% 【到達目標①、②、③に関する到達度の確認】						
履修上の注意	・出席するだけでなく、積極的な授業参加望む。 ・欠席するときは必ず事前に連絡すること。						

履修上の注意	
教科書	適宜ハンドアウトを配布
参考書	

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本学特殊講義A						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバ-	MJ508A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本的風景の研究						
授業の概要	風景の見え方は人それぞれである。生まれ育った環境に大いに影響されるもので、それを文化そのものだと評したとしても過言ではないであろう。歌枕もしくは俳枕を視座として、所謂、日本的風景について考察を加える。						
到達目標	高校までの学習と、大学以降で研究する学問との違いを理解した上で、より深く、日本的風景を楽しみ、説得力のある形で、その魅力を主体的に発信できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 神戸の風景 第3回 神戸中央部 第3回 兵庫県の風景 第4回 兵庫県北部 第5回 兵庫県南部 第6回 京都の風景 第7回 京都府北部 第8回 京都府南部 第9回 奈良の風景 第10回 奈良南部 第11回 奈良北部 第12回 大阪の風景 第13回 大阪中央部 第14回 神戸と大阪 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	地理的感覚を学ぶとともに、授業中に提示した本文テキストを、あらかじめ精読すること。自宅、図書館等での勉学に80時間程度は必要であろう。						
授業方法	講義形式に適宜、演習的要素を加味する。各自が、あらかじめ用意してきたものを、授業時間中に提示し、それを、どのように位置づけすればよいかを受講生間で相互に確認する作業を適宜、実施する。						
評価基準と評価方法	「大学以降での研究のあり方を理解し、日本的風景の魅力を説得力のある形で発信できる」との到達目標への達成度を最終的に評価するためにレポート試験を実施する。授業に対する取組等の日常の勉学状況も、その過程を重視し評価することとする。その割合は日常的な授業に対する取組状況等70%、レポート試験30%とする。						
履修上の注意	積極的な授業参加が必要						
教科書	授業中に指示する						
参考書	授業中に指示する						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本学特殊講義B						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバ-	MJ508B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の食文化						
授業の概要	日本とは何かを見つめ、様々な視点から検討することで、今、我々が生きている地域と文化のあるべき姿を問い直す。						
到達目標	高校までの学習と、大学以降で研究する学問との違いを理解した上で、より深く、日本文化を楽しみ、説得力のある形で、その魅力を主体的に発信できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 日本文化のさまざま 第3回 郷土の料理 第4回 伝統食 第5回 季節の料理 第6回 肉食 第7回 こなもの 第8回 和菓子 第9回 洋菓子 第10回 そば食 第11回 うどん文化 第12回 名物料理 第13回 駅弁 第14回 食文化と筆記試験 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	日本文化を楽しみつつ学ぶ心構えが大事で、授業中に提示したテキスト等を、精読できる学力を身につけるには、自宅、図書館等での勉学に80時間程度は必要であろう。						
授業方法	講義形式に適宜、演習的要素を加味する。各自が、あらかじめ用意してきたものを、授業時間中に提示し、それを、どのように位置づければよいかを受講生間で相互に確認する作業を適宜、実施する。						
評価基準と評価方法	「大学以降での研究のあり方を理解し、日本的風景の魅力を説得力のある形で発信できる」との到達目標への達成度を最終的に評価するためにレポート試験を実施する。授業に対する取組等の日常の勉学状況も、その過程を重視し評価することとする。その割合は日常的な授業に対する取組状況等70%、レポート試験30%とする。						
履修上の注意	積極的な授業参加が必要						
教科書	プリントを使用						
参考書	授業中に指示						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語学演習IIA						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバー	MJ510A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語の感動詞・感嘆文の研究—先行研究の概観—						
授業の概要	この講義では、日本語に関する研究のうち、特に感動詞および感嘆文に関する研究を取り扱う。受講者が各回の論文を決め、担当者はそれらの文献を要約し発表する。他の受講者は事前に文献を読んでおき、疑問点や問題点を考えておく。発表後、各々の疑問や関心に基づいて討論する。						
到達目標	(1)先行研究で述べられている内容を理解し、要約して発表することができる（【知識・理解】および【汎用的技能】） (2)先行研究に対して批判的な目を持ち、問題点を見つけることができる。（【知識・理解】） (3)感動詞および感嘆文に関わる事象に対する理解を深め、各々の視点で議論と考察ができる。（【知識・理解】および【汎用的技能】）						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 レジュメの作り方／要約の仕方 第3回 感動詞研究の概観／講読論文決定 第4回 日本語の感嘆文の研究（1）述体句と喚体句 第5回 日本語の感嘆文の研究（2）一語文 第6回 日本語の感嘆文の研究（3）感情と感嘆文 第7回 日本語の感嘆文の研究（4）疑問文と感嘆文 第8回 日本語の感嘆文の研究（5）レットル貼り文 第9回 日本語の感嘆文の研究（6）嘲り文 第10回 日本語の感動詞の研究（1）品詞性 第11回 日本語の感動詞の研究（2）感動 第12回 日本語の感動詞の研究（3）呼びかけ 第13回 日本語の感動詞の研究（4）応答 第14回 日本語の感動詞の研究（5）挨拶 第15回 日本語の感動詞の研究（6）掛け声						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前： 発表者は必ずレジュメを作成すること。 レジュメには当該回の論文の簡単な内容の要約と、論文に対する疑問点をあげること。 発表者以外も論文を読み、疑問点を見つけ出しておくこと。（3時間） 授業後： 授業内で問題となった点についてまとめる。（1時間）						
授業方法	第1回～第3回：主に講義形式 第4回以降：演習形式 資料配布や意見の集約などには積極的にmanabaを使う。						
評価基準と評価方法	発表：20%（到達目標(1)(2)に関する到達度の確認） 日常的な授業に対する取り組み状況等の評価（議論の内容含む）：40%（到達目標(2)(3)に関する到達度の確認） レポート：40%（到達目標(2)(3)に関する到達度の確認）						
履修上の注意	授業に積極的に参加すること。 授業中にmanabaを使う可能性があるため、PCを持ってくることを推奨する。						
教科書	必要に応じて、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語学演習IIB						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバー	MJ510B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語の感動詞・感嘆文の研究—分析—						
授業の概要	この授業では、日本語に関する研究のうち、特に感動詞および感嘆文に関する研究を取り扱う。後期では、具体的に感動詞あるいは感嘆文を取り上げ、分析を行う。						
到達目標	(1) 先行研究を踏まえたいうで、問題設定ができる。(【知識・理解】) (2) 感動詞あるいは感嘆文に関わる事象に対する理解を深め、コミュニケーションを取りながら協同して議論と考察ができる。(【知識・理解】および【汎用的技能】)						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 分析対象の設定 第3回 先行研究を見つけ出す 第4回 先行研究をまとめる 第5回 分析対象を絞り、分析方法を考える 第6回 データ収集の方法を考える 第7回 データを収集する 第8回 データを整理する 第9回 データを分析・考察する① 第10回 データを分析・考察する② 第11回 データを分析・考察する③ 第12回 データを分析・考察する④ 第13回 データを分析・考察する⑤ 第14回 結果をまとめる① 第15回 結果をまとめる②						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前：次回の内容について予習してくる(2時間) 授業後：授業内で問題となった点についてまとめる(2時間)						
授業方法	演習形式 受講者どうしの議論により分析・考察を行っていく。 データはエクセル形式で保管し、分析もこれを使う。						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価(議論の内容含む)：60%(到達目標(1)(2)に関する到達度の確認) レポート：40%(到達目標(1)(2)に関する到達度の確認)						
履修上の注意	授業に積極的に参加すること。 データをオンライン上で扱ったり、エクセルで分析したりするので、PCを持参することを推奨する。						
教科書	必要に応じて、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語学特殊講義IA						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバー	MJ506A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	消滅の危機に有る方言の記録						
授業の概要	消滅の危機に有る方言の記録として、文法書、辞書、注釈付き談話資料を作る。						
到達目標	(1) 知識・理解: a. 自然言語の音韻が理解できる。 b. 自然言語の文法が理解できる。 c. 日本語の多様性に意識的である。 (2) 汎用的技能: a. 学説が必ずしも定まっていなことに意識的である。 b. 事物の構造に意識的である。 c. 科学的分析の基礎が実践できる。 (3) 態度・志向性: 授業を通じて、研究の種を掴む。						
授業計画	01: 授業概要、授業計画、到達目標の説明 02: 日本語の社会的状況 03: 日本語の危機方言 04: 危機方言概観 05: 音声から文字への転写 06: 文の構造 07: 語の構造 08: アプリを利用した自動注釈 09: 自動注釈を行なうための形態素分析 10: 自動注釈を行なうための辞書編纂 11: 音韻の記述 12: 語形成の記述 13: 統語構造の記述 14: 全体のまとめと期末課題指導 15: 期末課題添削						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	(1) 授業前学習（毎週2時間）：教員が指示した重要語句や参考文献の予習。 (2) 授業後学習（毎週2時間）：授業内容の復習と期末課題の準備。						
授業方法	(1) 板書やスクリーンを活用しながら講義を行なったのち、授業内で完結する課題を与える。 (2) 練習問題や課題を複数人で行なう機会がある。 (3) 提出課題のうち、学習効果の高いものは、匿名処理を施して、受講者全員で共有する。						
評価基準と評価方法	(1) 授業内課題：50% 到達目標（1, 3）の確認。 教員が授業内で与えた課題に対して、積極的に、かつ、的確に回答したか。 (2) 期末課題：50% 到達目標（2, 3）の確認。 授業内容に即した論理的文章の作成。						
履修上の注意	特段の理由無く欠席した者に対する学習補助は一切行なわない。						
教科書	無し。						
参考書							

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語学特殊講義ⅠB						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバ-	MJ506B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	アクセント、声調、イントネーションの理解と音響分析の実践						
授業の概要	アクセントと声調との違いを理解したのち、語彙的音調を音響分析するための方法を学ぶ。						
到達目標	<p>(1) 知識・理解:</p> <p>a. アクセントと声調とを弁別できる。</p> <p>b. 語彙的音調と文法的音調とを弁別できる。</p> <p>c. 音声を機器で可視化できる。</p> <p>(2) 汎用的技能:</p> <p>a. 学説が必ずしも定まっていないことに意識的である。</p> <p>b. 構造的単位とその構成要素とに意識的である。</p> <p>c. 科学的実験が計画・遂行できる。</p> <p>(3) 態度・志向性:</p> <p>授業を通じて、修士論文の種を掴む。</p>						
授業計画	<p>01: 授業概要、授業計画、到達目標の説明</p> <p>02: 東京式アクセントの特徴 (1)</p> <p>03: 東京式アクセントの特徴 (2)</p> <p>04: 東京式アクセント方言の音声分析 (1)</p> <p>05: 東京式アクセント方言の音声分析 (2)</p> <p>06: 上記分析結果の検討 (1)</p> <p>07: 上記分析結果の検討 (2)</p> <p>08: アクセントと声調との違い (1)</p> <p>09: アクセントと声調との違い (2)</p> <p>10: 語声調方言の音声分析 (1)</p> <p>11: 語声調方言の音声分析 (2)</p> <p>12: 上記分析結果の検討 (1)</p> <p>13: 上記分析結果の検討 (2)</p> <p>14: 全体のまとめと期末課題指導</p> <p>15: 期末課題添削</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>(1) 授業前学習 (毎週2時間): 教員が指示した重要語句や参考文献の予習。</p> <p>(2) 授業後学習 (毎週2時間): 授業内容の復習と期末課題の準備。</p>						
授業方法	<p>(1) 板書やスクリーンを活用しながら講義を行なったのち、授業内で完結する課題を与える。</p> <p>(2) 提出課題のうち、学習効果の高いものは、匿名処理を施して、受講者全員で共有する。</p>						
評価基準と評価方法	<p>(1) 授業内課題: 50%</p> <p>到達目標 (1, 3) の確認。</p> <p>教員が授業内で与えた課題に対して、積極的に、かつ、的確に回答したか。</p> <p>(2) 期末課題: 50%</p> <p>到達目標 (2, 3) の確認。</p> <p>授業内容に即した音声データの作成。</p> <p>特段の理由無く3回以上欠席した者は、その最終成績を0点とする。</p>						
履修上の注意	特段の理由無く欠席した者に対する学習補助は一切行なわない。						
教科書	窪蘭 晴夫 (2006) 『アクセントの法則』 (岩波科学ライブラリー118) 岩波書店 ISBN-13: 978-4000074582						

参考書	服部 四郎 (1951) 『音声学』(岩波全書131) 岩波書店 服部 四郎 [1951] (1979) 『新版 音韻論と正書法』大修館書店 窪 蘭 晴夫 (1999) 『日本語の音声』(現代言語学入門2) 岩波書店 早田 輝洋 (1999) 『音調のタイポロジー』大修館書店
-----	---

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語教育演習IIA						
担当教員	松田 謙次郎					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	現代日本語の変異と変化の社会言語学的分析						
授業の概要	日本語教育への応用を念頭に置きつつ、現代日本語の変異と変化に関する問題を考える。変異理論的枠組みによる基本的知識を学びつつ、新たな問題発見へと繋げ、さらに分析の経験を積むことを目論む授業である。テキストの講読・発表を中心に進めるが、受講生に発言・質問を通じた積極的な授業への参加が望まれる。						
到達目標	① 日本語の変異と変化について高度で専門的な知識を獲得し、考えることができる。【知識・理解】 ② 日本語の変異と変化について独創的な方法で分析し、新たな知見を示すことができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：ことばのバリエーションとは【序章】 第3回：年齢差をつかむ【第1章】 第4回：時間からことばの変化をさぐる【第2章】 第5回：国会会議録を使う【第3章】 第6回：「日本語話し言葉コーパスを使う」【第4章】 第7回：バリエーションを分析する【第6章】 第8回：発音の変化を分析する【第7章】 第9回：ここまでのまとめ・質疑応答・中間試験 第10回：日本語動詞可能形の変遷をたどる【第10章】 第11回：「やばい」の変化を分析する【第11章】 第12回：「全然」の変化を分析する【第12章】 第13回：ことばのスタイルを理解し応用する【13章】 第14回：国会会議録を使った分析例：国会集団語 第15回：ここまでのまとめ・質疑応答・期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：講読するテキストの該当箇所を熟読し、内容を把握し考察を深める。<2時間> 事後学習：出された課題や問題について解いてくる。<2時間>						
授業方法	講義・発表						
評価基準と評価方法	発表：40% 【到達目標①と②に関する到達度の確認】 試験：30% 【到達目標①と②に関する到達度の確認】 授業参加：30% 【到達目標①と②に関する到達度の確認】						
履修上の注意	欠席3回で落第とする。						
教科書	日比谷潤子編著『はじめて学ぶ社会言語学 ことばのバリエーションを考える14章』ミネルヴァ書房 (ISBN978-4-623-06140-2)						
参考書							

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語教育演習IIB						
担当教員	松田 謙次郎					科目ナンバ-	
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	議会議録を使った現代日本語の変異と変化の社会言語学的分析						
授業の概要	日本語教育への応用を念頭に置きつつ、現代日本語の変異と変化に関する問題を考える。データを国会会議録および地方議会議録に限定し、そこからどのような知見が得られ、またどのような限界があるのかを考察する。テキストの講読・発表を中心に進めるが、受講生に発言・質問を通じた積極的な授業への参加が望まれる。						
到達目標	① 日本語の変異と変化について高度で専門的な知識を獲得し、考えることができる。【知識・理解】 ② 日本語の変異と変化について独創的な方法で分析し、新たな知見を示すことができる。【汎用的技能】						
授業計画	授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：国会会議録検索システム総論【第1章】 第3回：国会会議録はどれほど発言に忠実か？【第2章】 第4回：国会会議録における行政分野の外来語【第4章】 第5回：個人プロジェクト・アイデア発表 1 第6回：個人プロジェクト・アイデア発表 2 第7回：ら抜き言葉と国会会議録【第5章】 第8回：「が/の交替」と国会会議録【第6章】 第9回：さ入れ言葉と国会会議録【第7章】 第10回：個人プロジェクト・中間発表 1 第11回：個人プロジェクト・中間発表 2 第12回：気づかない方言と国会会議録【第9章】 第13回：集団語と国会会議録 第14回：個人プロジェクト・最終発表 1 第15回：個人プロジェクト・最終発表 2						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：講読するテキストの該当箇所を熟読し、内容を把握し考察を深める。<2時間> 事後学習：出された課題や問題について解いてくる。<2時間>						
授業方法	講義と発表						
評価基準と評価方法	発表：60% 【到達目標①と②に関する到達度の確認】 授業参加：40% 【到達目標①と②に関する到達度の確認】						
履修上の注意	欠席3回で落第とする。						
教科書	松田謙次郎（編著）『国会会議録を使った日本語研究』 ひつじ書房，2008. (ISBN978-4-89476-299-2)						
参考書							

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語教育特殊講義IA／日本語教育特殊講義A						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ-	MJ511A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教育および日本語学、関連境域における諸問題						
授業の概要	日本語教育の実践につなげ活用していくことを念頭に、日本語学及び日本語教育をめぐる様々な問題を考える。基本的な知識を確認・補充しつつ、自ら問題を発見し、主体的に考える力を養うことを重視したい。論文の輪読と受講生による研究発表を中心に進める。各自のディスカッションへの積極的な参加が求められる。実践を積むため学外の日本語教育機関に見学に行ったり、実習を行うことがある。						
到達目標	① 客観的に母語である「日本語」を観察することができる。【知識・理解】 ② 日本語について疑問に思ったことについて、それを研究し分析することができる。【汎用性技能】 ③ 日本語を母語としない者に日本語を教えることができる。【態度・指向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 日本語文の構造～基本文型～ 第3回 日本語文の構造～格助詞～ 第4回 格成分の主題化～コトとムード～ 第5回 格成分の主題化～コトを表す格助詞～ 第6回 格成分の主題化～ムードを表す「は」～ 第7回 格成分の主題化～主題化による格助詞の変化～ 第8回 格成分以外の主題化～4つの主題化パターン～ 第9回 二重格文 第10回 「は」の影響 第11回 日本語教育の観点からの「は」 第12回 は～が～構文 第13回 自動詞と他動詞 第14回 自他の区別 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	輪読する論文を熟読し、内容を把握するとともに問題点をあげておく。（授業外学習時間2時間） 発表を担当するときは、配付資料を用意しておく。（授業外学習時間2時間）						
授業方法	講義＋演習（発表を含む）						
評価基準と評価方法	・授業への積極性、発表、レポートなどの総合評価とする。（場合によっては学外での実習での評価も含む） 発表：・授業参加・積極性：60%【到達目標①②③に関する達成度の確認】 課題あるいはレポート：40% 【到達目標①②③に関する達成度の確認】						
履修上の注意	欠席するときは必ず事前に連絡すること						
教科書	適宜プリントを配布						
参考書	『考えて、解いて、学ぶ 日本語教育の文法』原沢伊都夫（2010）スリーエーネットワーク ISBN978-4-88319-542-8						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語教育特殊講義IB／日本語特殊講義B						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ-	MJ511B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教育および日本語学、関連境域における諸問題						
授業の概要	日本語教育の実践につなげ活用していくことを念頭に、日本語学及び日本語教育をめぐる様々な問題を考える。基本的な知識を確認・補充しつつ、自ら問題を発見し、主体的に考える力を養うことを重視したい。論文の輪読と受講生による研究発表を中心に進める。各自のディスカッションへの積極的な参加が求められる。実践を積むため学外の日本語教育機関に見学に行ったり、実習を行うことがある。						
到達目標	① 客観的に母語である「日本語」を観察することができる。【知識・理解】 ② 日本語について疑問に思ったことについて、それを研究し分析することができる。【汎用性技能】 ③ 日本語を母語としない者に日本語を教えることができる。【態度・指向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 ヴォイス 第3回 受身の形式と種類 第4回 動作主のマーカ 第5回 使役の形式と種類 第6回 その他のヴォイス 第7回 テンス 第8回 絶対テンスと相対テンス 第9回 動き動詞と状態動詞 第10回 テンス以外のタ形 第11回 アスペクト 第12回 金田一の動詞分類（瞬間性と継続性） 第13回 ムード～対事的ムードと意志のムード～ 第14回 注意すべきムードの表現 第15回 複文の構造						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	輪読する論文を熟読し、内容を把握するとともに問題点をあげておく。（授業外学習時間2時間） 発表を担当するときは、配付資料を用意しておく。（授業外学習時間2時間）						
授業方法	講義＋演習（発表を含む）						
評価基準と評価方法	・授業への積極性、発表、レポートなどの総合評価とする。（場合によっては学外での実習での評価も含む） 発表・授業参加・積極性：60%【到達目標①②③に関する達成度の確認】 課題あるいはレポート：40% 【到達目標①②③に関する達成度の確認】						
履修上の注意	欠席するときは必ず事前に連絡すること						
教科書	適宜プリントを配布						
参考書	『考えて、解いて、学ぶ 日本語教育の文法』原沢伊都夫（2010）スリーエーネットワーク ISBN978-4-88319-542-8						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本文学演習IA						
担当教員	長谷川 佳男					科目ナンバー	MJ503A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	『狭衣物語』巻四上、講読。						
授業の概要	平安時代において、散文技法の粋とロマンティズムを極めた『狭衣物語』巻四の上について、所定の範囲につき、指名された者が発表を行い、ディベートを通じて参加者相互の作品への理解の深化をはかる。古写本に恵まれた作品の特質を生かし、積極的に写本に触れてゆく。単語・文法・古典常識を土台に、そのレベルを引き上げる。						
到達目標	(1) 『狭衣物語』を古写本で音読し、内容のおおよそを理解できる。【知識・理解】 (2) 発表者は読み取った所見を発表し(プレゼンテーション)、参加者全員でそれを検証する(ディベート)。 (3) 古典籍全般を取り扱うアーカイブス技術を身につける。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 狭衣の出家を告げる神託 第2回 父の訴え 第3回 苦悩・父の苦悩 第4回 父の祈禱 第5回 煩悶と入道の宮からの疎外 第6回 一品宮からの疎外と、出家の挫折感 第7回 上皇との面会 第8回 念誦堂での入道宮との逢瀬ならず 第9回 院の女御の退出 第10回 現齋院と元齋院 第11回 父関白が齋院の運命を語る 第12回 齋院の姿を見て涙し、入道の宮を想う 第13回 齋院からの疎外、女房との贈答 第14回 蹴鞠、月下の宴 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備： 授業で読み進む部分について、事前に音読を繰り返して本文をインプットし、単語の意味、文法事項、必要な古典常識について調べておく。〈2時間〉 授業後学習： 授業を通じて気づき発見したことを振り返り、より深く読書し、授業内容を検証する。〈2時間〉						
授業方法	講義を中心にするが、授業後の理解の深化を目的に、事前学習と講義内容に基づいた分かち合いを大切にする。						
評価基準と評価方法	期末試験 70% 到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 小テスト 20% 到達目標(1)に関する到達度の確認。 授業への取り組み・発言 10% 到達目標(2)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	遅刻、欠席は厳に慎むこと。						
教科書	『新潮日本古典集成 狭衣物語〈新装版〉』(下) (新潮社) ISBN-13 : 978-4106208294 以下をプリントで配布 元和九年刊 古活字本 『狭衣物語』(写真・配布プリント) 承応三年 谷岡七左衛門板行整版本 『狭衣物語』(写真・配布プリント)						
参考書	『新潮日本古典集成 狭衣物語〈新装版〉』(上) (新潮社) 『新編日本古典文学全集 狭衣物語』(1)(2) (小学館) 『日本古典文学全書 狭衣物語』上下 (朝日新聞社) 『日本古典文学大系 狭衣物語』(岩波書店) その他、古写本・古版本の影印・写真・翻刻						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本文学演習IB						
担当教員	長谷川 佳男					科目ナンバ-	MJ503B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	『狭衣物語』巻四の上中、講読。						
授業の概要	平安時代において、散文技法の粋とロマンティズムを極めた『狭衣物語』巻四上中について、所定の範囲につき、指名された者が発表を行い、ディベートを通じて参加者相互の作品への理解の深化をはかる。古写本に恵まれた作品としての特質を生かし、積極的に写本に触れてゆく。単語・文法・古典常識の学力のレベルを一層引き上げる。						
到達目標	(1) 『狭衣物語』を古写本で音読し、内容のおおよそを理解できる。【知識・理解】 (2) 発表者は読み取った所見を発表し(プレゼンテーション)、参加者全員でそれを検証する(ディベート)。 (3) 古典籍全般を取り扱うアーカイブス技術を身につける。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 帰宅途中、故式部卿邸からの箏と琵琶の音色に誘われて 第2回 西面にて垣間見 第3回 他の女性との逢瀬中断、宰相中将来訪 第4回 宰相中将与、その母君・妹君について語る 第5回 宰相中将来に妹君との逢瀬を要請 第6回 母君代筆の妹君の文 第7回 院の女御、出産、中宮となる 第8回 東宮に謁見、宰相中将来妹君から東宮へ文 第9回 宰相中将来妹君へ東宮の前で文を書く 第10回 宰相中将来妹君からの返事、からむ権大納言 第11回 姉中宮の思い 第12回 宰相中将来妹君への文、母君と兄宰相中将来の思い 第13回 母君の発発病・悪化、娘の婚姻準備、母君の出家 第14回 見舞い、宰相中将来妹君からの直筆の文 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備： これからの授業で読み進む部分について、予め音読を繰り返して本文をインプットし、理解に必要な古文単語、文法事項、古典常識を調べておく。〈2時間〉 授業後学習： 授業で新たに発見したり気づいたことを振り返り、より深く読書し、授業を検証する。〈2時間〉						
授業方法	講義を中心とするが、授業後の理解の深化を目的に、事前学習と講義内容に基づいた分かち合いを大切にする。						
評価基準と評価方法	期末試験 70% 到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 小テスト 20% 到達目標(1)に関する到達度の確認。 授業への取り組み・発言 10% 到達目標(2)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	遅刻、欠席は厳に慎むこと。						
教科書	『新潮日本古典集成 狭衣物語』(下) (新潮社) ISBN-13 : 978-4106208294 および 元和九年古活字本 『狭衣物語』 (プリント) 承応三年 谷岡七左衛門板行 『狭衣物語』 (プリント)						
参考書	『新潮日本古典集成 狭衣物語』(上) (新潮社) 『新編日本古典文学全集 狭衣物語』(2) (小学館) 『日本古典全書 狭衣物語』(下) (朝日新聞社) 『日本古典文学大系 狭衣物語』 (岩波書店) その他 古写本の影印・写真などのプリント						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本文学史特殊講義A						
担当教員	長谷川 佳男					科目ナンバー	MJ505A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本古典文学史の研究（上代・中古）						
授業の概要	日本古典文学のうち中古以前の重要な作品の特質について、ジャンルの消長に注意しながら、時間軸を切り口に講義する。 原型に近い写本に触れつつ、各作品の文学的特性や達成を理解しながら、作品を生み出した環境、作品が及ぼした影響について研究する。						
到達目標	(1) 12世紀末までの日本文学の歴史の中で、各ジャンルの消長、個々の文学の生成について理解し説明できる。 【知識・理解】 (2) 日本古典文学・文化について考えたことを論じたり記述したりできる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 6世紀以前の文学① 日本語による記載 『古事記』『日本書紀』 第2回 6世紀以前の文学② 歌の発生 日本語で書く『万葉集』 第3回 国風暗黒時代の文学 日本漢詩と説話集 第4回 フィクションの夜明け 『竹取物語』と伝奇作品 第5回 平安朝和歌文学の歴史的展開① 六歌仙・歌合・屏風歌 第6回 『伊勢物語』の生成と歌物語 第7回 日記文学の展開① 『土佐日記』『蜻蛉日記』 第8回 平安朝和歌文学の歴史的展開② 三代集 第9回 後宮の文学① 随筆の達成 清少納言と『枕草子』 第10回 後宮の文学② 総合型長編作品 紫式部と『源氏物語』 第11回 日記文学の展開② 『和泉式部日記』『更級日記』 第12回 後宮の文学③ 『狭衣物語』その他 第13回 新しい時代へ① 歴史のリアルを描く物語 『栄花物語』と『大鏡』 第14回 新しい時代へ② 『今昔物語集』 第15回 中古以前のまとめ ・ 期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備： 各授業で触れる文学作品について、文学史の流れに沿いつつ、事前に可能な範囲で読書し調べておくこと。〈2時間〉 授業後学習： 文学を歴史的時間の流れで捉え、授業で触れた各作品について、興味関心に引きつけて、より深く読書し、授業内容を検証する。〈2時間〉						
授業方法	講義を中心とするが、授業後の理解の深化を目的に、事前学習と講義内容の理解に基づいた分かち合いを大切にしている。						
評価基準と評価方法	期末試験	70%	到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。				
	小テスト	20%	到達目標(1)に関する到達度の確認。				
	授業への取り組み・発言	10%	到達目標(2)に関する到達度の確認。				
履修上の注意	遅刻、欠席は厳に慎むこと。						
教科書	必要に応じ、適宜プリントを配布します。						
参考書	『日本文学新史』 全6巻（至堂堂） Seeds in the heart: Japanese literature from earliest times to the Late 16th Century, Donald Keene, Columbia University Press,						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本文学史特殊講義B						
担当教員	長谷川 佳男					科目ナンバ-	MJ505B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	古典文学史の研究（中世・近世）						
授業の概要	日本古典文学のうち中世以降の重要な作品の特質について、ジャンルの消長に注意しながら、時間軸を切り口に講義する。 原型に近い写本に触れつつ、各作品の文学的特性や達成を理解しながら、作品を生み出した環境、作品が及ぼした影響について研究する。						
到達目標	(1) 中世以降の日本文学の歴史の中で各ジャンルの消長、個々の文学の生成について理解し説明できる。【知識・理解】 (2) 日本古典文学・文化について考えたことを論じたり記述したりできる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 軍記物語の展開① 『平家物語』『太平記』 第2回 『建礼門院右京大夫集』と『とはすがたり』 第3回 隠者の文学 鴨長明と『方丈記』・兼好と『徒然草』 第4回 平安時代の歌学から藤原俊成・定家へ 第5回 貴族文化の集大成『新古今和歌集』 第6回 説話文学の展開 第7回 連歌の展開 俳諧の成立 第8回 武士の芸能 狂言と能 第9回 庶民の芸能 浄瑠璃と歌舞伎 第10回 庶民の読み物① 御伽草子・仮名草子・浮世草子 第11回 庶民の読み物② 前期読本・後期読本・その他 第12回 近世の韻文 蕉風の成立・蕪村と一茶 第13回 国学の展開① 契沖 第14回 国学の展開② 本居宣長 第15回 12世紀以降のまとめ・期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備：各授業で触れる文学について、文学史の流れに沿いつつ、事前に可能な範囲で読書し調べておく。〈2時間〉 授業後学習：文学を歴史的時間の流れで捉え、授業で触れた各作品について、興味関心に引きつけて、より深く読書し、授業内容を検証する。〈2時間〉						
授業方法	講義中心とするが、授業後の理解の深化を目的に、事前学習と講義内容の理解に基づいた分かち合いを大切にすする。						
評価基準と評価方法	期末試験 70% 到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 小テスト 20% 到達目標(1)に関する到達度の確認、 授業への取り組み・発言 10% 到達目標(2)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	遅刻、欠席は厳に慎むこと。						
教科書	必要に応じ、適宜プリントを配布します。						
参考書	『日本文学新史』全6巻（至文堂） Seeds in the heart: Japanese literature from earliest times to the late 16th Century, Donald Keen e, Columbia University Press, World within walls: Japanese literature of the pre-modern era, 1600-1867, Donald Keene, Columbia University Press,						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本文学特殊講義A／日本文学特殊講義IIA						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバー	MJ502A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	昭和期の文学						
授業の概要	昭和期の文学作品を読むことにより、日本文学の全貌に迫る。						
到達目標	日本語学、日本文学の両分野において、十分な知識を獲得し、体系的な理解力を身に付けることで、高校までの国語とは異なる文学研究ができるようになる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 芥川龍之介のこと 第3回 『或阿呆の一生』 導入 第4回 『或阿呆の一生』 応用 第5回 『或阿呆の一生』 展開 第6回 萩原朔太郎のこと 第7回 『猫町』 導入 第8回 『猫町』 応用 第9回 『猫町』 展開 第10回 詩と小説 第11回 川端康成のこと 第12回 『夕景色の鏡』 導入 第13回 『夕景色の鏡』 応用 第14回 『夕景色の鏡』 展開 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	数多くの文学作品を読み、関連する映画、ドラマを観るとともに、授業中に提示した本文テキストを、あらかじめ精読すること。自宅、図書館等での勉学に80時間程度は必要であろう。						
授業方法	一部に演習を含む講義形式 必要に応じてmanabaを活用する。コースニュースで必要事項を適宜、伝達する。						
評価基準と評価方法	「大学以降での研究のあり方を理解し、文学作品の魅力を説得力のある形で主体的に発信できる」との到達目標への達成度を最終的に評価するためにレポート試験を実施する。授業に対する取組等の日常の勉学状況も、その過程を重視し評価することとする。 その割合は日常的な授業に対する取組状況等70%、レポート試験30%とする。						
履修上の注意	好奇心を旺盛にして積極的な授業参加を心がけること						
教科書	『雑誌にみる近代日本文学』						
参考書	授業中に指示						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本文学特殊講義B／日本文学特殊講義IIB						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバー	MJ502B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	明治大正期の文学						
授業の概要	明治大正期の文学作品を読むことにより、日本文学の全貌に迫る。						
到達目標	日本語学、日本文学の両分野において、十分な知識を獲得し、体系的な理解力を身に付けることで、高校までの国語とは異なる文学研究ができるようになる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 『大つごもり』 導入 第3回 『大つごもり』 応用 第4回 『大つごもり』 展開 第5回 『吾輩は猫である』 導入 第6回 『吾輩は猫である』 応用 第7回 『吾輩は猫である』 展開 第8回 明治から大正へ 第9回 『山椒大夫』 導入 第10回 『山椒大夫』 応用 第11回 『山椒大夫』 展開 第12回 『謙作の追憶』 導入 第13回 『謙作の追憶』 応用 第14回 『謙作の追憶』 展開 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	日本文学全般に目配りし、様々な文献を精読すること。自宅、図書館等での勉学に80時間程度は必要であろう。						
授業方法	一部に演習を含む講義形式。 必要に応じてmanabaを活用する。コースニュースで必要事項を適宜、伝達する。						
評価基準と評価方法	到達目標への達成度を最終的に評価するためにレポート試験を実施する。授業に対する取組等の日常の勉学状況も、その過程を重視し評価することとする。 その割合は日常的な授業に対する取組状況等70%、レポート試験30%とする。						
履修上の注意	積極的な授業参加が必要						
教科書	『雑誌にみる近代日本文学』						
参考書	適宜、指定する。						